



古河の春を彩る桃の花

①

遅れていた花桃もやっと見頃を迎えました。古河の花桃は江戸時代の初期に当時の藩主だった土井利勝公によって植えられました。それは成長の早い桃の木を新として使うために領民に植えさせたためと伝えられています。やがて古河の桃の花は、近隣で有名になっていきました。明治の頃には、上野から古河まで観桃列車が走るほどだったそうです。

公園の代表的な花桃の種類



②



③



④



⑤

上の写真は公園に咲いている花桃の代表的な種類です。②は寒白、③は菊桃、④は源平、そして花桃の8割を占める矢口⑤です。これから次々に咲く花は4月中旬まで楽しめます。



⑥

古民家の前の斜面に咲く梅花が終わると、その下に顔を出してきたのはスイセンの花です。テイタテト、オレンジリー、サロメといった種類が植えられています。また、園内には他にもスイセンが植えられている場所があります。管理棟の周辺や目洗弁天池の周辺などです。

スイセンも花盛り！



新緑と野の花散歩

公園にも本格的な春がやってきました。公方様くほうさまの森①では、シデやコナラ、クヌギなどの落葉樹が一斉に新芽を出し、頭上では小鳥たちが虫を探しています。また足元ではたくさんの野の花が咲いていますが、どんな野の花にも当然、名前があります。今回はそんな野の花の名前を覚えてみませんか、下にある写真は、公園に咲く代表的な野の花です。



オオイヌノフグリ ②



カントウタンポポ ③



タチツボスミレ ④

②はオオイヌノフグリ、直径3mm程の花で、園路沿いによく咲いています。③はカントウタンポポです。一年中咲いているのはセイヨウタンポポですが、カントウタンポポは4月から5月の期間だけ咲きます。公園では桃林に群落があります。④はタチツボスミレです。公方様の森や林の中など半日陰の場所に咲いています。



ホトケノザ ⑤



ヒメオドリコソウ ⑥



トキワハゼ ⑦

⑤はホトケノザですが、園内でごく普通に見られます。花期は3月から5月です。⑥はヒメオドリコソウです。小さな花ですが、形が独特で葉が重なるように上へ上へと伸びていきます。花期は3月から4月です。⑦はトキワハゼ、地面を這うように咲いています。芝生などの野原で見かけます。暖かい日にはポケット図鑑を片手に春の野の花を探しながらのんびりと公園散歩をしてみてもいいでしょうか。



見るたびに
成長していますよ



公園の蓮池^{しんちよう}周りを散歩すると日々伸張する蓮の芽^{しんちよう}を見ることが出来ます。5月初旬に生え出した蓮の芽は一気に伸びて7月の下旬頃は人の背丈^{せたいけ}を越すほどに成長します。そして美しい蓮の花は7月初旬から8月にかけてが見頃になります。

小麦畑の黄金色^{こがねいろ}



公園の中央にある中山台でも、すくすくと元気に伸びている植物があります、それは小麦です。前年の11月に蒔いた種^まからもうこんなに大きく立派になりました。6月になると麦秋^{ばくしゅう}と言われる黄金色^{こがねいろ}の畑に変化しますが、それは完熟した小麦の実^{かんじゆく}の収穫^{しゅうかく}の時期です。毎年たくさんの実が成りますが、その大部分は公園のクジャク^{えさ}の餌となります。いろいろな栄養をもつ小麦はクジャクの大事な食物となっています。今年もたくさん実をつけるといいですね。

中山台と蓮池に挟まれた池は浄円坊池^{じょうえんぼういけ}といいます。この小さな池には今が見頃のスイレンが咲いています。ハスとスイレンは同じ水生植物で似ていますが、ハスの葉が水上に立っているのに対してスイレンは浮かんでいます。また葉の形をよくみるとハスは真ん丸ですが、スイレンの葉には切れ込みがあります。これからの季節には、スイレンの清楚^{せいそ}で涼やかな花はぴったりです。浄円坊池^{じょうえんぼういけ}のスイレンの花を見に来ませんか？5月から7月いっぱいまで見ることが出来ます。

涼やかに咲くスイレンの花





梅雨入りのこの時期、総合公園の花も一段と美しくなります。菖蒲園では、艶やかな紫色のショウブの花が、桃林との境界の小道では、アジサイの花が公園を飾り立てます。どちらも梅雨を代表する花ですが、雨に濡れた花を愛でるのも楽しみの一つです。



シロツメグサの花で いっぱいの野原で遊ぼう

公園の中央にある中山台では、この時期になるとシロツメグサのお花畑が出来ます。シロツメグサとは、ご承知のようにクローバーの葉ができる植物です。このクローバーで子供の頃遊んだ人は、たくさんいるのではないのでしょうか、四つ葉を探したり、花の冠を作ったり。皆さま、また、童心に帰って遊んでみては、いかがでしょうか？

公園田んぼ、見守ってね！

公園の南側にある田んぼは、ホッツケ田といひます。今年もまた公園遊びの専門家、どろんこクラブが田植えを行いました。

植えられた苗は、これからぐんぐん成長して秋には、立派なお米になります。その田植えの様子をカエルさん

(トウキョウダルマガエル) がジッと見つめていました。皆さまも成長具合を見守ってね？



古河総合公園の夏の花を代表する大賀蓮は、1975年に千葉市から蓮の根（レンコン）2本を頂き、池に移植し、広がっていきました。今では、3000㎡の蓮池全体で美しい蓮の花を見せてくれています。蓮の花は、午前9時ころに一番大きく咲き（開く）ますので、鑑賞するときは午前中に行くのが基本です。また花が咲く時期は、6月後半から8月初旬までですが、7月中が見頃になるでしょう。

大輪の大賀蓮花



ミソハギの花

蓮池の南側と菖蒲田には、ミソハギが植えられています。ミソハギは、見た目がラベンダーのようで、よく勘違いされる方もいらっしゃいますが、実は日本に昔からある花です。ミソハギは精霊花（ショウリョウバナ）とも呼ばれ、お盆の頃の仏様へのお供え花としてよく使われました。昔は田の畦や水辺などに自生していましたが、今ではすっかり見られなくなりました。花の時期は、7月から8月いっぱいまでです。



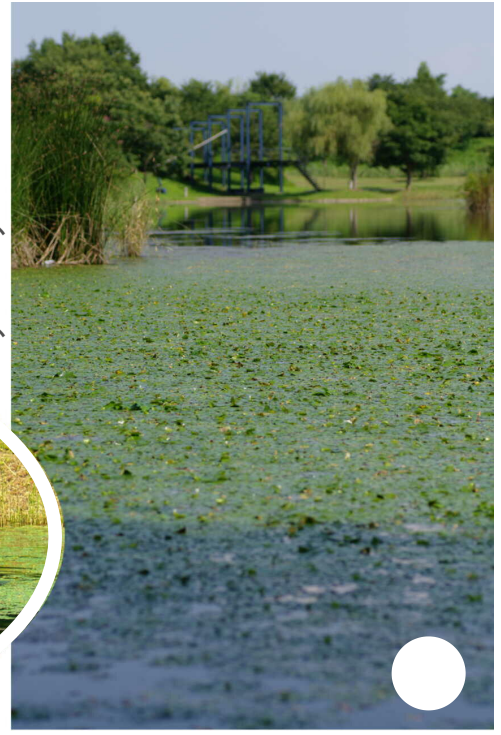
公園の水辺は水生生物の宝庫ですが、特に夏の時期はトンボが数多く飛び交っています。それは、自然豊かな御所沼の賜物です。多様な生物が生きる沼は、餌が豊富で、トンボの幼虫であるヤゴも生育しやすいのでしょう。⑤は、公園の象徴的なトンボ、チョウトンボです。③コフキトンボ、④はショウジョウトンボです。

古河総合公園



夏の風物詩 御所沼のヒシ刈り

初夏から秋にかけて御所沼の水面をおおう水草にヒシがあります。ヒシは、^{ひしがた}菱形の語源となった水草で、葉は菱形をしていて実は食用になります。昔の御所沼では、地元の人が船を浮かべて菱の実を取ったりしていたことでしょう。現在では、食用に実を取ることはありませんが、^{はんしよく}繁殖したヒシをそのままにしておくと腐ってヘドロの原因になってしまいますので、夏になるとヒシ刈りを行っています。この作業には、近在の方から提供された和船を使用しています。この和船は、^{ひらぶね}平船とも言いますが底の平らな平船は、安定性あってこうした作業に向いています。御所沼の夏の風物詩、ヒシ刈りをどうぞご覧になってください。



ホツツケ田にも花が咲く

どろんこクラブが大切に育てているホツツケ田のお米ですが、やっと花が咲き出しました。

を見ると穂のサヤの脇から白い小さな花が出ているのがわかります。この後に授精^{じゅせい}をしてサヤがふくらんでお米になります。あと1ヶ月もすると稲刈りですね。



ハス花が終わって...

^{ゆうび}優雅な大賀蓮の花が終わってからのハス園の主役は、^{おおがはす}果托です。花が咲いている時には、花弁の中で円錐状に黄色く ^{かたく}ふくらんでいます。この時は花托と書きます。花弁が落ちて、受粉した種子がふくらんでくるとカタクは、花托から果托^{かたく}に変化します。最初は、緑色の柔^{やわ}らかい玉たったハスの種もやがて黒く固い1センチくらいの玉になります。この強固な殻^{から}を持つハスの種は、大賀蓮のように泥の中で2千年もの間、眠^{よみがえ}って現代に蘇ることもあるのです。



実りの秋 ホッツケ田の実り



どろんこクラブが、春から大切に育てていたお米が、ようやく収穫の時期を迎えました。刈り取った稲は、おいしいお米を作るため昔ながらのハンレンで天日に干しています。どうぞ皆さま見守ってください。

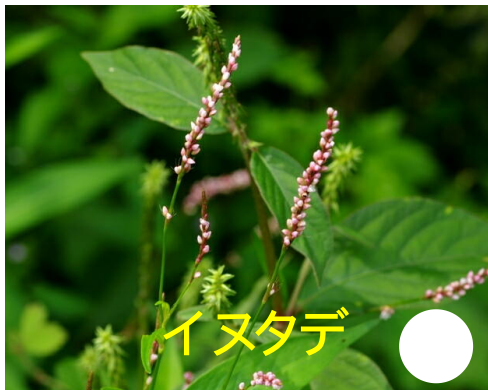


ヒガンバナ咲き出しました



秋の公園を彩るヒガンバナが公園のあちこちで咲き出しています。虚空蔵堂の下、桃林の中、雪華園（ジェラテリアの前）、公方様の森の中などです。鮮やかで印象的なヒガンバナは、様々な名前と呼ばれていますが、曼珠沙華（マンジュシャゲ）や幽霊花（ユウレイバナ）など仏教にまつわる名前が多いようです。それはちょうどお彼岸の頃に咲いたり、根に毒があるなど、人の生死に関わるような事が多い事が影響しているのでしょうか。

道草しませんか？



イヌタデ



キツネノマゴ

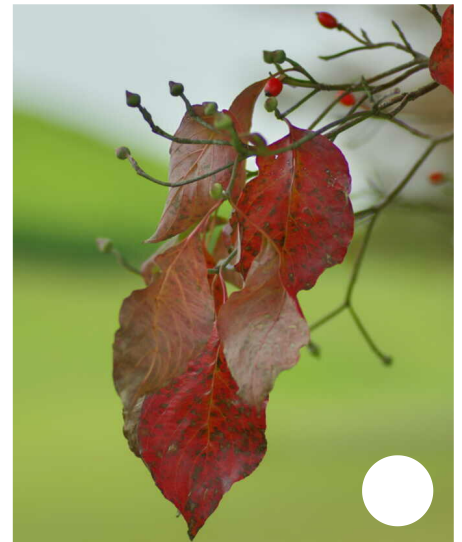
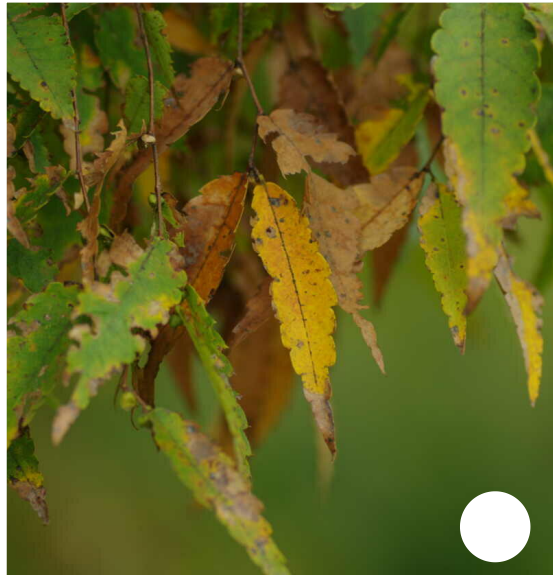
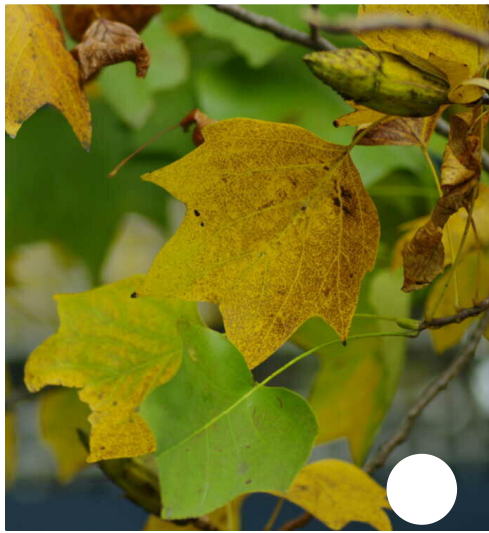


ヒナタイノコヅチ

公園の小道を歩くとそこには、様々な野の花や草があります。公園の管理では、除草剤や消毒などを極力使わないようにしています。それは、薬剤に弱い虫や魚類、植物などを絶やさないためです。そのためチョウやトンボ、メダカやタナゴなど他では見られない動植物が観察出来ます。たまには、道際の草花を眺めながら道草をしてみませんか？

公園で最初に紅葉が始まるのは、中山台です。生えているのは、ユリノキ、ケヤキ、ハナミズキ、エノキ、サルスベリ等どれも紅葉や落葉する木です。しかしよく見るとそれぞれ色合いや表情に違いがあるのがわかります。また、その年によっても紅葉の度合いが違っています。今年の紅葉は、9月の台風で葉が擦れたせいか、茶色く変色してしまった物が多いようです。これから紅葉は、一日一日と変化をしていきます。毎日違った表情を見せる中山台の紅葉を楽しみませんか。

中山台の秋



水辺の飛ぶ宝石


沼辺を飛ぶコバルトブルーの小鳥をご存知でしょうか、留鳥のカワセミです。1年中同じ場所に生息していますが、見かけるのは、秋から春にかけて草木の彩度が落ちて鮮やかな羽色が目立つ時です。また、餌の小魚のいる場所も限られてしまいますので、毎日同じ場所で見かけることが多いのです。



夕焼けに染まる御所沼

秋の公園の夕暮れを彩るのは、夕焼けに赤く染まった御所沼です。特に風の静かな日の夕暮れに管理棟から見る御所沼の水面は、真っ赤に染まって、まるで別世界の様、息を飲む美しさです。10月～11月にかけての日の入りの時間は、午後5時～6時頃です。一日の終りには、古河総合公園の管理棟から夕焼けを眺めて見ませんか。

晩秋の公方様の森



中山台から始まった紅葉は、晩秋になると公方様の森を美しく彩ります。クヌギやコナラ、シデなどの落葉広葉樹林は、近代まで里山の雑木林でした。この森は、地域の住民の^{いりあい}入会地として薪を供給し、その落ち葉は、畑の肥料となって住民の生活を支えて来ました。この豊かな自然環境を育む森は、古河の大切なふるさとの森です。



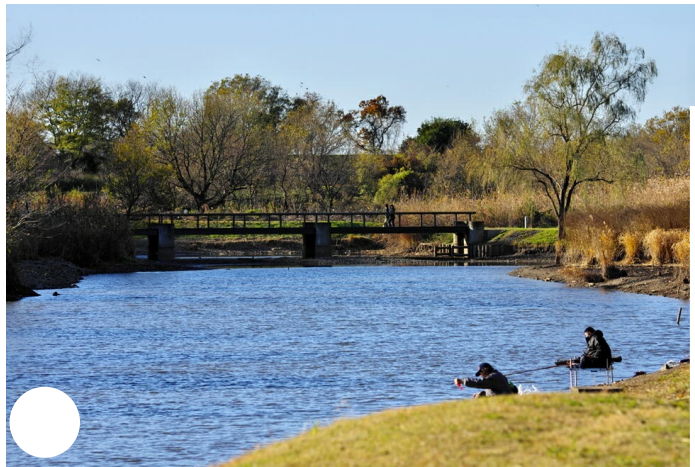
室町時代の後期に足利成氏^{しげうじ}が鎌倉から古河に移った出来事は、古河の歴史にとって、最も重要な出来事の一つです。幕府と対立した、成氏は、最初この公方様の森に居を構えました。現在その森には石碑^{いしひ}が立っています。なおその隣には、空堀跡^{くうけ}と言い伝えられる場所も残っています。古河に移り古河公方と称した、関東足利家は、その後、約130年5代に渡って関東の一大勢力となりました。そして最後の公方、義氏の娘、氏姫^{うじひめ}は、^{こうのすけしよ}鴻巣御所と呼ばれる、この森に最後まで住み続けたと言われています。また公園の中には、氏姫の菩提寺であった徳源院^{とくげんいん}と言う寺の跡が残されています。

御所沼に架かる橋



御所沼の水抜きが始まって1ヶ月を過ぎ、沼の水位は、最低ラインまで下がりました。そのため普段見ることの出来ない沼の一面を見ることが出来ます。沼に架かる橋もその一つ、足元が見えることで橋の構造を知ることができます。公方様の森から南に架かる橋は、天神橋と言います。昔、天神様の祠が橋のたもとにあったことから名付けられました。構造はコンクリートで支えられた桁橋、ケーブルで吊られた斜張橋、両方に乗りか

った中央部分と、三つの構造を使って作られている珍しい橋です。



は、相ノ谷橋と言いますが、御所沼の古い地名をしのんで名付けられました。橋の構造はコンクリートで支える桁橋です。は、獺橋と言います。昔、御所沼

の南に獺沼と言う沼があり、その名前をしのんで名付けられました。構造は、大きな土管を横に3つ並べ、隙間に碎石や土砂を入れて橋にしています。



公園を彩る冬の花



12月を過ぎた公園で見かける花といえば、サザンカとツバキです。青々とした葉に鮮やかな赤やピンク、白の花が芽えています。どちらもツバキ科の常緑広葉樹で、一般的には、ツバキが冬から春にかけて咲くのに対し、サザンカは、秋から冬に咲きます。また、花の終わりは、ツバキが首から散るのに対しサザンカは、葉から散ります。咲いている場所は、茶畑の周囲や富士見の丘の南側、公園南側の並木道、菖蒲畑の周囲など、至る所で見かけることが出来ます。